

<http://dw.diamond.ne.jp/category/india>

ダイヤモンドオンライン記事一覧： インド式“数理”思考 ＝ニルマラが誘う数の不思議＝40件

週刊ダイヤモンド



この
続きは

デジタルサービス<ウェブで読む>を利用する



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議＝

日本のトイレで“踊る”インド人のナゾ「インド人もビックリ」の5つの事柄

2015年10月15日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/15106>

何世代にもわたって、日本は、多くのインド人が最も憧れる国。こんなにもたくさん国がある中で、日本は常に「特別の存在」なのです。もちろん、インド人の多くが、実際に日本を訪れたわけではなく、また、人気の留学先や就職先でもありません。ですが、日本に足を踏み入れたインド人は、次に述べるようなことを、驚きとともに知るようになります。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議＝

買い物は日本製品から選ぶべし—— インド人が日本企業を愛する理由

2015年10月14日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/15104>

インド人の日本製品への熱狂的な支持は、自動車メーカーのスズキがインド政府との合併で「マルチ 800」を発売した 1980 年代から始まりました。インドの家庭では、もしも買いたいものがあれば、日本製から選ぶべきだと教えられます。これらの歴史的経緯を踏まえ、現在のインド人が抱く日本企業とその製品に対する印象を見てみましょう。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議＝

15年間で8倍に伸びたインド人の海外旅行 なぜスイスが憧れの渡航先ナンバー1なの？

2015年9月28日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/14907>

スイスは、インドの観光客だけでなく、ハリウッド映画制作者にも人気があります。インド人のスイス熱は、1960年代にハリウッド映画が、最初にスイスで撮られてから始まりました。それ以来、スイスはハリウッド映画の人気のロケ地になっており、長年にわたっていくつもの映画がスイスで撮影されてきました。スイスは、ロマンスと自然の美しさと幸せの場所として、インド人の心にあるのです。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

急伸するEコマースも税制の整備に遅れ 深まるインド州政府とAmazonの対立

2015年9月25日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/14905>

ナレンドラ・モディ首相は、統治の妨げとなっている時代遅れの法律を洗い出す委員会を立ち上げました。また、政府は、時代に対応する新しい法律を成立させる計画です。インドにおけるEコマースビジネスの例を見てみましょう。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

グーグルに新たなCEOが誕生 インド人が世界的大企業のトップに就くわけ

2015年9月3日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/14668>

グーグルは7月、サンダー・ピチャイ氏を最高経営責任者(CEO)に指名しました。インド中でお祝いムードが起こり、世界はインド人の人的資源パワーを再認識することになりました。また、技術分野や国際企業において、インド生まれのタレントが存在感を増していることをはっきりと示すものでもありました。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

インドで最も愛された政治家が死去 科学者として技術立国に寄与

2015年8月17日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/14499>

7月27日の夕刻、インドで愛されてきたある人物が、この世を去りました。第11代のインド大統領、アブドゥル・カラム博士は、著名な航空技術者でインド宇宙科学・技術大学(IIST)の総長を務めた、インドで最も偉大な人物に挙げられる1人です。カラム氏が大統領を務めたのは2002年から07年まで。原子力を専門とする科学者からの転身でした。彼は、科学者として一国を率いた世界初の人物です。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

インドがIPO手続きを合理化 急増するベンチャーキャピタル

2015年7月28日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/14329>

今年6月、インド証券取引委員会(SEBI)は、新規公開株式(IPO)の電子申請を承認しました。株式の売り出しや上場に向けた手間を削減する効果があり、個人投資家のIPOへの関心も高める内容になっています。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

日本でもブームのヨガ インド最大のソフトパワー

2015年7月13日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/14169>

ヨガは、世界に対するインドの古代伝統の貴重な贈り物です。その歴史は何と5000年以上!! ヨガは、心と体、思考と行動、抑制と達成との一致、人間と自然の調和などを具現化した、健康と幸福への心身一体のアプローチです。単なる運動ではなく、自己、世界、そして、自然との一体感を発見することを目的としています。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議= ネスレがインドで引き起こした インスタント食品アレルギー

2015年7月1日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/14036>

衝撃的な情報公開で、世界最大の食品会社ネスレの子会社、Nestle India(ネスレ・インド)の人気即席麺ブランド「Maggi(マギー)」が、インド全土の地域の食品安全および薬品管理局(Food Safety and Drug Administration :FDA)によって、消費するには安全ではないと宣言されました。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議= 世界中が注目する 印中関係の未来は？

2015年6月11日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/13788>

中国とインドは長年にわたる文化交流の歴史を共有しており、そのことが二国間関係を強化する上で重要な要素になっています。過去には、インドと中国との関係は浮き沈みの激しいものでしたが、2002年から14年までの間に二国間の貿易量は49.5億ドルから700億ドルへと増大しました。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議= 新政権の誕生から丸1年—— インドは何が変わったのか？

2015年6月2日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/13711>

2015年5月26日でナレンドラ・モディ政権が誕生してから1年が経ちます。インドの経済成長率は、4.5~4.7%だった過去数年間に対して、今年度中に5.5%を記録する見込みで、さらに16年は7~8%、17~18年は10%に達すると見込まれています。IMF(国際通貨基金)および世界銀行の報告書では、インドのGDP成長率は間もなく中国を上回り、今年から来年にかけての経済成長の速度は、想定



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議= 年間成長率55%、世界3位のスマホ市場 インドに攻勢をかける中国メーカー

2015年5月15日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/13493>

4月に行われた中国通信機器メーカー、Xiaomi(小米)の携帯電話機「Mi4i」の発売の場には、この中国企業による最新の携帯電話を一目見ようというインド人が、気温35度の暑さの中、ほぼ1万人もの人々が列を成しました。インドのスマートフォン(スマホ)利用者数は、契約数で約1億1700万人で、中国、米国に次ぐ世界第3位。しかも、国内でのスマホ普及率は低く、まだまだ成長の余地があります。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議= 理系の国、インドで起きる空前の工学部フィーバー 卒業生総数126万人、最難関大の合格率は2%

2015年4月27日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/13413>

2004年の中国における工学部卒業生の数は、世界最多の実に60万人に上りました。一方、インドは2番目で35万人、米国が7万人で、最後にヨーロッパは全体で10万人でした。それから10年後の14~15年、インドでは126万人もの工学部生が卒業しました。現在のインドにおける工学部学位は、良い職に繋がるからです。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

インド“女性”の社会進出は遅れているのか？ 抑圧の傍らで日本をしのぐ取締役比率

2015年4月17日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/13275>

インドでは、政治、ビジネス、学問の分野においてこそ印象的な女性リーダーが強烈な存在感を発揮していますが、女性が暴力を受け易いことに関するニュースや、健康状態に関する女性の各種指標の低さ、公式経済に対する女性の参加割合の低さなどが対照的に取り沙汰されます。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

年間 1000 作品の映画を生み出す “ボリウッド”映画が日本に本格進出

2015年3月25日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/13030>

1990年代に、日本で最も人気があったインド映画は、ラジニークンが主演した「ムトゥ踊るマハラジャ」です。あれから25年経った今でも日本人々は、この映画のことを憶えています。先立つ少数の公開作品の成功に勇気づけられ、より多くのヒンディ映画が日本の映画業界で勝負しています。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

印・モディ政権が発足初の本格的な予算案 来年度の経済成長予測は 6.2%から 7.9%へ

2015年3月18日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/12955>

インドのアルン・ジャイトリー財務相は2015年2月28日、2015年度の予算案を発表しました。これは、昨年5月にモディ政権が発足して以来、初めてとなる本格的な予算案で、大胆かつ斬新なものです。税の不明確さを是正し、投資家にとってインドで事業を行い易くするための税制改革が導入されました。インドで事業を行うことの簡素化について、投資家達に正しいシグナルを発信し、インド人の多くは、15年度の予算案について成長志向の予算であると感じています。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

本場に進出する日の丸“カレー” 日印融合の新種も登場？

2015年2月26日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/12725>

インド人は、日本のカレーが好きだと思いますか？ また、インド人が好きな日本料理とは？数年前まで、インド人の大半は、スシと刺身の違いが分かりませんでした。発音することはできたかも知れませんが、その違いはほとんど理解不可能でした。スシは生魚を使った料理であるため、平均的なインド人は日本料理を拒絶していました。ほとんどの日本料理は完全菜食主義者が食べない肉や魚を使っているため、日本料理を好まない人もいました。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

インド人の外食嫌いは過去のもの？ ファーストフード産業が変える伝統的食文化

2015年2月13日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/12562>

インドのファーストフード産業は、インド人の可処分所得が増えるのに合わせて過去数年間に大きく成長しました。いくつもの国際的な料理に接することになったインドの消費者は、西洋と現地双方のメニューの混合をいろいろな形で試してみることに前向きです。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

えっ!?ナンってインド料理じゃないの? インド発祥ではない意外な5つの食べ物

2015年1月30日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/12389>

インド料理には、インド発祥のバラエティ豊かな各地域の料理があります。土壌や気候、人々の職業などの多様性により、各地域の料理は大きく異なっており、その地域で調達できるスパイスやハーブ、野菜、フルーツを使用します。また、インドの食べ物は、宗教的・文化的な伝統の影響を大きく受けています。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

7年後に13億人全員がマイホームを!! 6500万戸の住宅建設を掲げるインド

2015年1月23日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/12387>



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

【独占インタビュー】ラヴィ・ヴェンカテサン(マイクロソフト・インド元会長)

2014年12月25日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/12059>

インドでは、この10年足らずの間に、「社会的企業」(事業を通じて社会問題の改善を図る企業)が国家的な現象になりました。インド社会に合った革新的なビジネスモデルなど、社会的企業はインドの膨大な開発ニーズに取り組んでおり、実行可能、かつ持続可能な収益モデルになりつつあります。同時に、この分野では、純収益が3倍増になるようなビジネスを支援することに関心を持つ国内外の投資家が増加しています。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

SBも注目するインドのオンライン・ショッピング その市場の70%を占める産業とは——

2014年12月18日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/11960>



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

【独占インタビュー】シャム・スンダー・バニク(インド銀行東京支店 CEO)

2014年11月26日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/11645>

インドの銀行界は、この10年で、インターネットやモバイル機器だけでなく、ATMを通じた取引が急増した。インドの銀行業は大きな転換期を迎えている。金融サービスを農村部にまで広げようとするインド準備銀行や政府の取り組みによって、今後5~10年の間に200万近い職を創出すると見込まれている。さらに、新政府は全国民が銀行口座を持てるよう新しい政策を採用した。インド銀行(Bank of India)東京支店の最高経営責任者であるS.S.バニク氏に将来の課題、機会そして成長について話を聞いた。

●



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

米映画「ゼロ・グラビティ」の製作費よりも安い インドの“火星飛行船”成功の先にあるものとは

2014年10月23日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/11254>

別の生命体、別の惑星の探索のため、数百もの探査機を低価格で打ち上げることができるとしたら……。そのときに人類に広がる可能性を想像してほしい。これこそ、インドが目下、取り組んでいることだ。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

5日間のモディ首相の訪日から読み解く 5つの成果と5つの宿題リスト

2014年9月22日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/10937>

日印関係が「特別な戦略的グローバル・パートナーシップ」のレベルへと格上げされたことを受け、今回は、モディ首相の訪日から見えてきた“5つ”の成果と、宿題をそれぞれ挙げてみよう。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

2500万人が繋ぐグローバルネットワーク 在外インド人が握るインド経済の未来

2014年8月19日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/10472>

海外に住むインド人の数は推定2500万人以上だ。米国や英国、サウジアラビアなど世界中の主要国に広がっている。現代のインド移民は、英国による植民地支配時代の19世紀、貧しい人々が労働力として英国本土や、その植民地に移住したことに端を発する。1970年代は中東のオイルブームに乗り、湾岸諸国に向かい、90年代は米国のITブームで、大勢が渡米した。現在、インド人は、在米外国人のうち、人口規模で第3位だ。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

【独占インタビュー】松本勝男(国際協力機構・南アジア部次長)

2014年7月22日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/10275>

ナレンドラ・モディ首相は、ビジネスに理解のあるリーダーとして、また、親日家として知られている。日本の安倍首相と「ツイ友」であることは、世界メディアの注目の的だ。独立行政法人、国際協力機構(JICA)南アジア部次長、松本勝男氏にインタビューを行った。「日印双方が全ての分野で市場を解放すれば、その効果は計り知れない」と指摘する。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

5000年の歴史を刻む伝説の古都「バラナシ」が新政権で復権する理由

2014年6月17日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/9867>

5月に行われたインドの総選挙では、国内外で2つの疑問が囁かれた。すなわち、インド人民党(BJP)を率いた新首相、ナレンドラ・モディ氏は、何故、わざわざ「バラナシ」を自らの選挙区に選んだのか。そして、それによって何をしようとしているのか、だ。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

【独占インタビュー】ディーパ・ゴパラン・ワドワ(駐日インド大使)

2014年5月27日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/9670>

5月26日にはナレンドラ・モディ氏を首相とする新内閣が誕生する。駐日インド大使、ディーパ・ゴパラン・ワドワ氏に新政権の課題と、日印関係のこれからについてインタビューを行った。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

漆黒に輝くダイヤモンドを追い求める 世界3位の産出国の苦悩とは？

2014年4月24日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/9274>

もし、インドで新しい黒いダイヤモンドが発見されたと思ってこの記事を読み始めた人がいたら、それは見当違いである。なぜなら、インドで今価値があるのはダイヤモンドよりも黒いダイヤモンド、すなわち、“石炭”だからだ。ほとんどの国は石炭を使用しなくなっているにもかかわらず、である。ご存じのように、石炭とダイヤモンドはどちらも炭素でできており、その結合の仕方が違いを生む。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

日本はアジアの地政学的中心であり続ける 日印関係の未来を読み解く7つの回答

2014年3月25日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/8961>

今回、印日関係とそのアジアで役割について、ジャワハルラール・ネルー大のスワラン・シン教授にインタビューを行った。アジア学会長、アジア&太平洋研究・インド協会の事務局長などを歴任したシン教授の専門は、インドの外交政策と国家安全保障で、アジア外交についても詳しい。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

18~22歳の若年有権者が1.2億人!! 今年のインド総選挙が注目される理由

2014年2月21日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/8684>

例年と同様、今年度も世界各国のビジネスリーダーたちが世界経済フォーラム(2014年1月22日~25日開催)に参加するため、ダボスに集まった。彼らは毎年ここで、各国の発展の行方などについて、それぞれの見解を発表している。インドが今年焦点を当てたのは、自国の総選挙の行方であった。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

ビジネスも正月に始めると縁起が良い!? インドにおける1月1日の多様性とは

2014年1月21日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/8233>

1月1日は太陽暦あるいはグレゴリオ暦では新年の第一日目であり、世界中で宗教的、文化的、社会習慣的に祝われている。今回は新年の祝い方で日本とインドを比べてみたいと思う。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

天皇皇后両陛下の訪印に見る 2000 年間に及ぶ日印関係の絆

2013 年 12 月 17 日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/7865>

日本の天皇皇后両陛下が 11 月 30 日(日曜日)夕刻、6 日間の訪印日程でインドの首都ニューデリーに到着し、マンモハン・シン・インド首相がガシャラン・カール夫人とともに空港で出迎えた。天皇ご夫妻の訪印は皇位継承後では、53 年前の 1960 年、11 月から 12 月にかけて皇太子時代にご夫妻でインドを訪れて以来、公私ともに初めてである。この機会に日本とインドのこれまでを振り返ってみるのも悪くないだろう。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

“時代遅れ”が一転して IT 大国へ インド 1000 億ドル産業の軌跡とは？

2013 年 11 月 20 日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/7557>

IT 産業は、インド経済に計り知れない貢献をしている。最大の雇用創出産業であり、それは 1980 年代から 2000 年代のインド人の考え方に影響を与えた。人々はソフトウェア・エンジニアになりたいと思い、そうでなければソフトウェア・エンジニアと結婚したいと思ったものである。今回はインドの IT 産業の成功と、その要因について考えてみたい。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

“巨象”VS“龍”の行方—— 巨象は天かける翼を生やせるか

2013 年 10 月 16 日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/7141>

“巨象”と“龍”に喩えられるインドと中国は、二大新興国として、ビジネスのみならず、文化やツーリズムまでも、あらゆる面で比較されることが極めて多い。今回はその両国の位置づけを対比して見てみたいと思う。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

近い未来の最大の消費者—— インドの若者を虜にする 5 つの“MY”

2013 年 9 月 20 日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/6911>

OECD や世界銀行を始めとする世界的機関では、2020～30 年にインドは、世界最大の中間層消費者と平均年齢が 25 歳の国になっていると予測する。目下、インドでは、世界最大の若い消費者が育ちつつあるのだ。彼らが今、何をしているか見てみよう。ここ数カ月、インド関連のニュースは聞くに堪えないものがあつたが、インド人自身にとっても心地良いものではなかった。しかし、どの話題も掘り下げると 1 つの事実に向きあう。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

インドの不“C”議 古今を読み解く頭文字

2013 年 8 月 21 日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/6444>

インドと聞いて、日本人がまず思い浮かべるものは、不思議とアルファベットの“C”を頭文字にする単語が多い。まず、何と言ってもカレー(Curry)、チャイ(Chai)、牛(Cow)、カースト(Caste)、チャクラ(Chakra)、そしてインド起源とされるチェス(Chess)。さらに、生命力に満ち溢れた極彩色(Color)、カオス(Chaos)、独自の文化(Culture)、過去の植民地(Colonial)支配、等々。数え上げると切りがないぐらいだ。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

インド“35”州の歴史絵巻—— 100の言語が1つの国に存在する理由

2013年7月23日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/6187>

インドは、その歴史を通して数多くの民族に征服されてきました。征服者たちは行政府を置いて支配し、インドの社会に大きな影響を及ぼしてきました。その影響は文学、言語、社会宗教観の形をとって今もなお続いています。



インド式“数理”思考 =ニルマラが誘う数の不思議=

インド人が“黄金狂”なのは何故？ ゴールドに∞(無限)の価値がある理由

2013年6月18日 <http://dw.diamond.ne.jp/articles/-/5786>

金(ゴールド)の最大輸入国インド。なぜ、インド人が金に熱狂するかご存じですか？ ヒンドゥー教の文化では、人生における全ての重要な節目を「正しい時期」や「縁起の良い時」を選んで始めるという習わしがあります。“Akshaya Tritiya”は、何か重要なことを始めると実り多い結果が得られる、とても縁起の良い日の1つと考えられています。



インド式“数理”思考 = ニルマラが誘う数の不思議 =

【最終回】 2015年10月15日

日本のトイレで“踊る”インド人のナゾ 「インド人もビックリ」の5つの事柄

何世代にもわたって、日本は、多くのインド人が最も憧れる国。こんなにもたくさんの国がある中で、日本は常に「特別の存在」なのです。もちろん、インド人の多くが、実際に日本を訪れたわけではなく、また、人気の留学先や就職先でもありません。ですが、日本に足を踏み入れたインド人は、次に述べるようなことを、驚きとともに知るようになります。